

令和7年度第1回恵那市こども・子育て会議 会議録

日時：令和7年7月29日（火）

午後7時～午後8時30分

場所：恵那市役所会議棟 大会議室

1. 委嘱書交付

2. 市長あいさつ

3. 委員自己紹介

4. 委員長、副委員長の選出

5. 委員長あいさつ

6. 議題

(1) 恵那市こども・子育て会議の役割について【資料1】

(2) 恵那市第2期こども・子育て支援事業計画の実績報告について【資料2】

(3) 恵那市こども計画と令和7年度からの取り組みについて【資料3】

(4) ALL えなネウボラ会議の報告について【資料4】

7. その他

(1) 恵那市福祉センターあり方検討委員会の選出について

(2) 恵那市環境審議会委員の選出について

8. 閉会のあいさつ（副委員長）

■出席委員

杉山 淳、小栗 崇、光岡 真由、紀岡 伸征、水野 浩美、駒宮 博男、安田 和枝
石田 しず江、牧野 直宏、堀尾 憲慈、蜂谷 明子、横井 喜彦、坪井 弥榮子、
片山 三咲、可児 由紀子、西尾 朋子、大石 佐緒理

■欠席委員

森 如謙

■進行（事務局） 定刻なので開会する。本日進行を務める子育て支援課長の高橋です。よろしくお願いします。

この会議は、こども・子育て支援法に基づき平成 25 年度から開催している。市のこども・子育て支援に関する施策や、こども・子育て支援事業計画について審議頂く場として設けられている。

委員の任期は2年間で、約 20 人で構成し開催することになっている。

本会議の成立は、恵那市こども・子育て会議条例第 6 条第 2 項の規定により過半数の出席が必要だが、委員名簿の 15 番森委員が所用により欠席との連絡を頂いており、18 名中出席者は 17 名であり過半数以上の出席をもって本会議が成立していることを報告する。

また、本日の会議は、恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき原則公開とし、会議録も公表する。

本日の会議終了は概ね午後 8 時 30 分を予定している。御協力をよろしくお願いします。

資料は 2 種ある。不足はないか。

1. 委嘱書交付

■進行（事務局） 今年度は委員改選の年となることから、皆様全員に委員を委嘱する。任期は令和 7、8 年度の 2 年間となる。本来 1 人ずつ委嘱書をお渡しするところだが、時間の都合上、代表者に委嘱書をお渡しし、他の方には机上配布をもって代える。

代表として杉山様、お願いします。

[市長が委嘱書を読み上げ、交付]

2. 市長あいさつ

■進行（事務局） 小坂市長より挨拶を申し上げる。

■市長 昼間は大変な暑さだが、夜は少し緩んだ。お忙しい中ありがとうございます。本日から 2 か年の委員の委嘱をした。引き続き支援いただきたい。

各分野、業界の代表の立場でこども・子育てについて日頃から尽力いただいております。感謝申し上げます。新たに委嘱した委員もあるが、これから実現したいことをこの場で発言いただきたい。

こども・子育てとは関係ないがごみの件で御礼など申し上げる。7 月初めからエコセンター恵那が稼働できなくなりごみ処理できなくなった。非常事態宣言を出した。2 週間、ごみの減量をしてほしいとか待ってほしいというお願いをした。結果、全体で 16、17%のごみを減らしていただいた。おかげで何とか持ちこたえた。それでも出たごみは、現場で

積み上げるのとは別に、中津川市、瑞浪市、土岐市、多治見市に処理してもらった。99%までごみが積み上がったが何とか乗り切り、再稼働し、通常に戻った。不便をかけたが協力いただき感謝している。ごみを減らしていただいたことは大きな力になった。

今年新たに取り組むこと。武並のクリスタルパークで初めてプール営業をスタートした。市内の事業者が自主的に取り組むという申し出をいただいた。私どもは使用料を頂きながらプールの営業をスタートした。若干利用が伸びてない。特に小さなお子さんがいる方は、恵那市にとって初めての市民プールのようなものなので利用してほしい。市民には 500 円割引がある。

もう一つ。新しい取組。小学校の子を対象に、まずは市役所で、仕事体験をする。建設であれば物を造る、測量・設計することを体験できる。各課でいろいろな体験をしていただき役所の仕事を見ていただく。できれば市内の事業者に参加いただき、夏休みに親の仕事を見て将来この町で働きたいと思っていただけるようにしたい。こどもが少なくなる中、これからも恵那市を理解し、恵那市内で働ける場所を作っていきたい。

恵那市は住みたい田舎ランキングの子育て部門で日本一。いろいろなメニューを積み上げてきた結果だ。この会議で出された意見を実現していこうという思いで取り組んできた結果だ。皆様に感謝している。これからもこどもたちが元気に育つ取組をしたい。皆様の立場で実現したいことを提案いただきたい。活発な意見を賜りたい。

3. 委員自己紹介

- 進行（事務局） 名簿順に自己紹介をいただく。所属とお名前のみ。
- 杉山委員 恵那市地域自治区会長会議代表として来ている。よろしくお願いします。
- 小栗委員 恵那市こども園・保育園保護者会連合会会長の小栗です。よろしくお願いします。
- 光岡委員 恵那市PTA連合会副会長の光岡です。よろしくお願いします。
- 紀岡委員 恵那市社会福祉協議会の紀岡です。児童センターの館長を兼ねている。
- 水野委員 恵那市社会福祉協議会の水野です。相談支援事業所の相談員をしている。
- 駒宮委員 みんなで子育ての駒宮です。4月から野井区長になった。全員男だ。しかしここはすばらしいジェンダーバランスで良いと思った。自治会もそうなるといいと思う。
- 安田委員 恵那市青少年育成市民会議運営委員長の安田です。よろしくお願いします。
- 石田委員 主任児童委員の会長で、児童福祉部会の石田です。よろしくお願いします。
- 牧野委員 恵那商工会議所の牧野です。よろしくお願いします。
- 堀尾委員 連合岐阜東濃地域協議会事務局長の堀尾です。労働組合のサラリーマンの代表の立場で参加している。

- 蜂谷委員 小児科医の蜂谷です。よろしくお願いします。
- 横井委員 中京学院大学で保育を教えている横井です。よろしくお願いします。
- 坪井委員 恵那市SDGs推進協議会会長の坪井です。よろしくお願いします。
- 片山委員 すずめっこ杉の子幼稚園副園長の片山です。よろしくお願いします。
- 可児委員 学童保育連絡協議会の可児です。よろしくお願いします。
- 西尾委員 恵那市立小学校会会長の西尾です。よろしくお願いします。
- 大石委員 恵那市立こども園長会の大石です。よろしくお願いします。
- 事務局 副教育長の工藤です。よろしくお願いします。
- 事務局 幼児教育課長の西尾です。よろしくお願いします。
- 事務局 幼児教育課係長の河合です。よろしくお願いします。
- 事務局 医療福祉部長の古山です。よろしくお願いします。
- 事務局 子育て支援課の宮川です。よろしくお願いします。
- 事務局 子育て支援課の可知です。よろしくお願いします。

4. 委員長、副委員長の選出

- 事務局 恵那市こども・子育て会議条例第5条により、委員長及び副委員長は互選により選出することになっているが、いかがするか。委員のみなさんから立候補する方があれば挙手をお願いします。

[発言なし]

- 事務局 なければ事務局案を示すが良いか。

[「異議なし」の声あり]

- 進行（事務局） それでは、委員長には恵那市SDGs推進協議会会長の坪井弥栄子様、副委員長には恵那市民生委員児童委員協議会児童福祉部会部会長の石田しず江様をお願いしたい。いかがか。

[拍手する者あり]

- 進行（事務局） 皆様からの承認をいただいたので、坪井様、石田様、前方の席へ移動をお願いします。

5. 委員長あいさつ

■進行（事務局） 挨拶を頂く。

■委員長・坪井 先日新聞とテレビを見ていて感激したことがあった。こどもの成長の一環として、賛否両論あると思うが、恵那北中学校の学生が修学旅行で大阪万博に行った。以前から親交があったポーランド館を見てポーランドの人たちと話をしたいということだった。その喜びが手に取るように分かった。ポーランドの人も、恵那北、笠置の人なんだということ。日本の大阪で万博をやったから会えたが他の国では会えない。こういうことは一生ないかもしれないという経験をされた。こちらにも喜びが伝わってきた。両親や先生や尽力した教育委員会のおかげだと思い、こみ上げるものがあった。こどもの成長はいろいろなことがある。その中の一つだと思う。彼らの心の中に一生この思い出が残ると思う。

このこども計画の表紙に公園がある。昨年恵那市制 20 周年の記念で恵那市に 4 つ公園を作った。武並、三郷、中野方、上矢作にできた。三郷はうちのすぐそばでうちの庭のようだ。この猛暑の中、朝と晩にはにぎやかな声が聞こえてくる。嬉しい。地域の人もみんな喜んでいと思う。

今年 3 月に策定されたこの恵那市こども計画は、令和 7 年度から令和 11 年度までの計画。今年度は計画の初年度に当たる。子育てパッケージも 6 年度、7 年度と充実し、子育てについては恵那市が一番だという気持ちで皆さんと一緒に意見を頂きながら進めていきたい。

■副委員長・石田 昨年に続きもう一度副委員長を仰せつかった。人口減少が続く中、うちは三郷の西という一番瑞浪に近いところで、うちの子が 4 月に生まれて 1 年経った。そうしたら 6 月にもう 1 人男の子が生まれ、9 月にもう 1 人生まれる。良いこども計画ができたので、いろいろなメリットがあるという話もした。今後も少しでもこどもたちが増えて声が聞こえるように、皆さんが意見をたくさんくれると有り難い。

■進行（事務局） 市長はここで退席する。

6. 議題

- (1) 恵那市こども・子育て会議の役割について【資料 1】
- (2) 恵那市第 2 期こども・子育て支援事業計画の実績報告について【資料 2】
- (3) 恵那市こども計画と令和 7 年度からの取り組みについて【資料 3】
- (4) ALL えなネウボラ会議の報告について【資料 4】

■進行（事務局） ここからは、坪井委員長の進行により、議事を進めていただきます。
坪井委員長、よろしくお願いいたします。

■議長（委員長） 4 つ議題がある。皆さんからの意見をたくさん頂きたいので、事務局からまとめて説明していただき、その後一括して質疑に入る。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■議長（委員長） 質問、意見はあるか。

一人ずつ聞く。

■杉山委員 長年日本では給料が上がらない。30 年以上経済成長していない。少子化高齢化がどんどん進む。私が子育てしたときよりはるかにすばらしい制度ができて有り難いが、どこかに上限があると思う。それぞれのまちが競って手厚い制度を作れば、経済的に強いまちが勝ち残る結果になるので、それが正しいとは思えない。どこかで歯止めをかける必要があると思う。30 年前の国民負担率は 3 割だった。現在は、ほぼ 50%。所得は一生懸命働いても国に上納し、生活環境は苦しくなるばかりだ。

先日参議院選挙があったが、結果を見ると、そういうことに対する国民の不満はかなり大きい。自民党や公明党への不満が如実に表れた。一つの政党は若い女性が働きやすく子どもを産みやすい環境を作るために月 10 万円ずつ手当を配ると言っている。国の宝である子どもをいかに増やすかという視点が、30 年間しっかり議論をされてこなかったのが今回の選挙に出たと思う。

私が子どもを育てるとき、明智から子どもが恵那高に通うのに半年の定期が 11 万円ぐらいだったが、今 6 万円。こんな有り難い制度はない。ただ、これにも上限があると思う。どこで歯止めをかけるかしっかり話し合わなければならない。今、恵那市は住みたいまちランキングで 2 回連続全国トップなので、大いに誇っていい数字が出ていると思う。

■小栗委員 子どもへの援助などに対しては恵那市はすばらしい制度ができていますが、親の働きやすい環境づくりへの支援ももう少ししてほしい。

学童保育。保育園までは早朝保育や延長保育がある。今年から小学校の登校時間が 8 時 15 分になり、フルタイムで働いていた母親が、子どもが 1 年生になるとフルタイムで働けなくなるという声を聞く。大阪府でも早朝学童が始まったようだ。恵那市でも検討いただきたい。

私は岩村に住んでいる。学童が小学校から 1km ぐらいの場所。低学年だけで学童に通うので、1 年生になったばかりの子が、交通量の多い中で危ない。子どもが減っているので小学校も空き教室が増えていると思う。先生や学童の負担も大きいと思うが、安全面を考慮して小学校の教室を使う学童を検討してほしい。

■光岡委員 妊娠中から子育て中までいろいろな支援があり、恵那市独自の政策でこういふときはこういうサービスが使えることがたくさんあり良いと思った。私は南小学校の生

まれて、私もこども時代、こどもが少なくて子供会が機能してなかった。市長のお仕事体験の話があったが、娘もそれをする予定だ。イベントなどがあるといろいろなところの友達が来てすぐ仲良くなり中学校一緒だねとか、それいったことも周知されると良いと思った。

■紀岡委員 ライフステージ別のサービス一覧を見ると、充実してきていると思う。この会議に参加して、以前いろいろな意見が主要施策に反映していただき有り難い。市役所でお仕事体験はすばらしい。

児童センターについて。夏休みなど、ボランティア体験。社会福祉協議会で福祉施設を紹介している。大井児童センターでは毎年中学生が延べ10人ぐらい体験しているが今年は申込みがゼロで、職員が呼び掛けて参加してくれた子がいた。学校も生徒に案内するのにいろいろなボランティアの依頼があり、十分周知ができていなかった。将来的に地域で仕事をしたり、住んでいくという意識を作るためにも、ボランティア体験や職場体験で地域のいろいろな体験をしてほしい。そこにもう少し力を入れたいと思っている。

■水野委員 普段、発達が心配な子や不登校の子に関わる機会が多い。子育てに悩みを抱える母親が本当に今は多い。しつけでは何とかならない。サポートしてほしいという話が福祉の方に来るケースが本当に増えている。どのタイミングで介入するかが、関り出しのスタートによっても変わってくる。

うちの社協でも巡回相談や三歳児健診で関わっているが、相談に来る母親がすごく多く、内容を知りきれていない。受け皿の問題で、せっかく療育に繋がりたいと思っても受入れができるところがなく待つてもらったりしている。でも、こどもはどんどん大きくなるので歯がゆい。恵那市のいろいろな施策があって良いが、発達の心配な子、不登校の子について、学校や園などの関係機関ともっと関係を深め、何とかならないかといつも思っているので、それを皆さんと共有したい。

■駒宮委員 杉山委員から江戸時代の五公五民だという話が出た。この30年で今までと、ガラッと変わったという認識を持っている人が非常に少ない。少子化に関しては、国際的なデータを見ると、戦争に負けた国は合計特殊出生率が低い。日本、イタリア、ドイツ、韓国。台湾も。低くなった理由が何なのかがよく分からない。それが分かるのがまず、とても重要だ。逆に、合計特殊出生率の高い国は、アメリカ、フランスなど戦争に勝った国、それとスウェーデン。なぜなのか。分からない。

多分、恵那市の子育て支援施策は、宝島社が言っているように、日本一だ。これはこれで維持すればいいと思うが、あえてもう一つ言えば、今年度からシームレスという言葉がある。どこまで行ったらシームレスなのかが非常に大きな問題。昨年、一昨年も話したが、子育てをしていて一番お金がかかるのが高校以降。それを何とかしないといけないのではないか。あるいは、本当に子育てが終わるのは、やはり社会に出るとき。そこまでシーム

レスになるような子育てができるが良い。

もう一つ、お願い。こういうすばらしい施策や、こども中心の社会というものが、地域に全く落ちてない。自治会を構成しているのは大抵 60 歳以上の男だけ。これが大問題。問題にすらならないのが現状。それを何とか、私も頑張るが、自治会そのもののジェンダーバランスをきちんとするというところからしないと、問題は解決しないと思う。

幸い三郷では坪井会長が頑張っている。頑張っているのは坪井さんだけが。少しずつ、特に若い女性、当事者がそこに登場できるような自治会の構成を考えないといけないと思う。

■安田委員 私はいろいろなことを地域にお願いに行く。奥様が「やってもいいかな」という感じになると旦那さんが出てきて「うちの女房には無理だ」「うちの女房はそんな能力がない」と言う。能力のない人に頼みに行っていないのに必ずそういう言葉が出る。特に 60 歳代以降の男性。奥様の活躍する場を抑えることがものすごくある。放課後クラブの支援員を月 1 回こどもと一緒にやってくださいというお願いに行っただけでそう言われる。「責任が取れない」とか、そういう言葉で言われる。これは変わっていくべきだと思う。

夏休み前に 2 回大雨警報が出て学校が休みになった。親も祖父母もバタバタして仕事を休まないといけない。母親は午前中のパートを休む。そうすると誰かがそこをカバーしないといけない。警報なので外には出せない。ただ、ある小さい子の母が言われたのは、「こども園は親も送っていくけどだめなのかな」と。こども園も休止になるが、元々親が送っていくから安全だと。送っていけない親は家で見るが、送って行って仕事に行きたいというのがある。

ただ、「パパが」という言葉は一言もない。こういうことが起きたとき、誰がどう動くのか。ここがケアできるともって母親も祖父母もストレスがなくなる。

そう思うと、子育て支援とはどういうことなのかと感じた。そういうところがケアできるようなソフトがあるといい。

あと、小さい子への支援、小中学生までの支援は手厚いが、中学生や高校生は。中学生のアンケートでは恵那市に住みたい子が 68%いる。高校生は 3 割に減る。なぜか。そういうところを考えていかないと、小さい子の支援を厚くしても恵那に住む子が少なくなる。課題だ。

■牧野委員 私には中学校と高校の娘がいるので今の言葉は心が痛い。反省する。父親も協力しないとイケないと個人的に感じる。

立場上では、仕事体験。企業だけの名前に入れるより、学校の教育プログラムの中で、就職してもらいたい企業がピーアールする場があれば、事前に情報があった上での計画の方がこどもたちにとってはより分かりやすいと思う。そういうところで恵那商工会議所や恵南商工会が連携しながら企業への依頼はできる。

■堀尾委員 共感できる意見がたくさんある。

学童。私も何年も前からこういう会議に参加し、学童利用者がなぜ学校の施設が利用できないのかと思っている人が多いという話も聞いているし、それが解決できてないところが歯がゆい。努力をお願いしたい。

これだけ子どもが少なく空き教室が増えているのになぜ利用できないのか。自治体によって違いもある。いろいろな情報を入手していただき検討いただきたい。突然警報が出たりして、祖父母がいるところはいいが、対応者がいないときには、どうしても負担は母親にかかる。

では、なぜ父親じゃないのか。一つは職場の理解が大きい要因。私たち労働組合の団体なので、そういうことが非常に多い。労働組合があってもなかなかそういうことがきちんと話がされていないが、労働組合がないところとは大きく違う。労働組合としては、そういうことの話し合いができるのが大きな部分。私たちもそういう活動をしているので、少しでも労働組合が会社と社員やパートの人ときちんと話ができより良い関係でいられる環境を目指して頑張っている。

なかなか今はそうでない会社や労働者が多い。そういう現状も市として把握していると思うが、そういう方々に対し、例えば企業にどういう働きかけをしていただければいいのかということも、労働団体もいろいろあるが、協力していただけたところには協力していただき進めてほしい。

労働組合のないところには私たちは入り込めない。労働相談などいろいろな形で、労働組合がない会社に勤めている人の相談も受け付けている。今日の皆さんの中からも、どこに言ったらいいか分からない場合は、気軽に言ってほしい。

■蜂谷委員 私は神経発達症をやっている。恵那市のシステムと連携している。全国の小児科医の学会でも何回も発表できるぐらい、連携としてはすごくできている。これだけ連携できている市は珍しい。例えば、今だと、あおぼの心理士や相談員、支援センター、子育ての方とみんなと一緒に園、学校の巡回にも行っているし、一人一人が本当によく分かっている。すごい。

それから、今日も大井小学校と三郷小学校に行って先生方の相談を受けていた。本当に一生懸命だ。一人一人、心理士もみんな潰れかけながら、薄給で、正規の職員じゃない恵那市で頑張っている方々は、すごいと思う。子どもたちへの気持ちでやっている。今日もつくづく思ったが、先生方を支えないと、若い先生がどんどん辞めていっている。先生方を支援するということが。倒れると大変だから。それもシステムのうちに。これだけ連携して支援教育について頑張ってやっている。だけど、その大人たちを支えるシステムがない。そこもシステム化すると良い。

でも、恵那市がそこまで行っているということはある。

あと、コロナの影響が出ている。今の小学生は小さいとき思い切り遊ぶことがない。今の6年生が小学校に入学した途端にリモート授業になった。みんなで遊ぶということが下手。どうみんなでコミュニケーションを成立させるか、体でも言葉でも難しくなっている。それを小学校の先生方が苦勞している。

コロナで、親同士で食事することも、運動会もお弁当を食べず午前中で帰るようになり、親同士はLINEで話している。親同士でも誰かをLINEから外そうとかいうのがある。リアルな生活ではないところで進んでいる。そこも母親たちの子育てをどう応援し力を付けていくかが今後の令和の大きな課題だ。

質問。大きい紙の資料の、7年度からの新しい支援メニューの中、最後の、こども園幼児コースの長期休業中の預かりの実施と利用料金の見直し。これをもう少し教えてほしい。妊娠したら上の子をこども園で預け、生まれた途端に上の子が、今までだと、もう親が家にいるからということで預かりが切られた。あれを見直すのか。

■事務局 それではない。そのパターンは、幼児コースに変わってくれば、3歳以上児なら続けていける。未満児の場合は、待っている人がいる。こども園は4月同時ではなく生まれ月で入るので、順番に待っている人がいる園では退園してもらおうが、いないところではそのまま引き続き在園できる。

幼児コースの長期休業中の預かりというのは、いわゆる1号認定、幼稚園コースだが、この方たちは今まで夏休みは学校と同じの完全な夏休みだったが、下の子の病院があったりなどで見れないとき、長期休業中も預かるということをはじめた。

■蜂谷委員 今後の希望として、生まれた途端に赤ちゃんのワクチンがたくさんあるので来るのだが、母親たちが上の子を連れて、生まれたばかりの子を連れて、「この子、こども園を退園になっちゃった」と言われるのは厳しい。母親が赤ちゃんを見るのは本当にしんどい。妊娠中は預けて友達もできてきた子を退園させるということは、ちょっと考慮いただきたい。次の課題としてほしい。みんな苦勞している。

■事務局 課題とする。

■横井委員 私はいろいろな保育園を回る。誕生日の表を見ると、外国籍の人が増えている。外国人の増加というのがテーマに挙げられている。保育の立場で言うと、外国籍のこどもの保育、その前に、外国人の母親が安心して出産できるかというところから始まるが、保育士の悩みとして、保護者との会話、書面によるコミュニケーション、食事や生活の具体的な指導のことで悩みを抱えている人が多い。相談に乗った経験がある。その辺の実態はどうなっているか。解決できる方法を考えるといいと思う。

それと、小規模保育所のC型が令和4年度から開園して継続して支援しているということ。東濃地域でA型が主流だがC型の保育園があることは知っていたがどういう状況になっているか。C型は12人と少なく、保育士を取得する人が「いいな」と思うと取得できる

が、取得状況はどうか。

それと、放課後児童クラブで指導員のキャリアアップ研修や処遇改善が進んでいるのは有り難い。指導員になる人が誇りをもって仕事するためには、きちんとした知識、スキルがあって処遇改善されると続けられるので、継続して充実させていってほしい。

確認だが、一時預かりが令和6年まで189人、令和7年が見込み量として457人とある。一時預かり事業とこども誰でも通園制度の2つがこれから始まる中でどういう見込みか、確保量を計算すればいいのか。こども誰でも通園制度のところを見ると、これは多分未就園児の階層も入れているのか。令和8年度が0歳児で780人行くので、そうすると上限5時間で考えても、0歳児だけで月156人になる。それで合っているか。その辺の見込み量がどうなのか。

なぜかと言うと、こども誰でも通園制度はこれから始まるが危惧する中身が多い。特に乳児保育を専門にする中で、0歳児を面談や慣れ保育なしでいきなり預けるとするのはとても怖い。しかも、一時預かり事業をやっている人ならある程度スキルがあるが、そうじゃない事業者も入ってくると心配だ。

育休退園が残っているなら、それで考え直してほしい。かなり岐阜の中でもその辺を見直している自治体が増えている。ここは子育てが一番というところを考えるとそこに手を付けることになると思う。

■片山委員 私の園は長年私立幼稚園としてやってきたが、昨今の保育ニーズに合わせ、来年度からこども園に移行する。今、その準備を進めている。それに当たり、職員の確保も難しく、こども園になると時間も延び、受入れ年齢も今は満3歳児以上だが、こども園では1歳児からになる。そのあたりの職員の確保が今一番の課題。保育士、幼稚園教諭を希望する学生数も減ってきていると聞いている。資格があつて、今まで子育てしていた人ややってなかった方が手伝ってくれるとありがたい。今、中学生の卒園児が夏休みにボランティアに来てくれている。私たちも卒園した子たちの成長を見たり、今日来ていた中学生もこどもたちと一生懸命接してくれ、こどもたちも喜んでいて。そういうところからこういう仕事に興味を持ってくれるとありがたい。

職員確保で、8月2日に東美濃ふれあいセンターで中津川市と恵那市と合同でお仕事フェアを開いてもらう。それにも参加する。

■可児委員 皆さんの話を聞いて、学童保育が注目されていることが身にしみた。

学校の施設の利用ができないという話。学童保育は子育て支援課が担当。学校は教育委員会。そこが超えられない。子育て支援課は頑張っているが、教育委員会は、少人数教育で使うから使わせられないなどと言う。

先日、学校の体育館にエアコンが入り涼しい中でこどもたちが遊べてすごく有り難いが、夏休みはまきがね体育館を利用する。そうすると減免になってエアコンは無料で使えるが、

学校があるときは、学校でお願いするとなると、こども教室というのがありそれは教育委員会がやっており、こども教室は無料だが学童保育には使わせられないと言った事務の人があって、がっかりした。学童保育のこどももこども教室のこどもも同じ大井小学校のこどもなのにそういうふうに区別する。悲しくなった。

警報で学校が休みになると学童保育も休みになる。そうになると、働いている親はとても困ると思う。そのとき、父親も参加してくれている。学童保育で迎えも半分ぐらい父親が来ている。夏と冬に大掃除をするが、父親の参加もとても多い。恵那市に学童保育が32年前にできたが、その頃と比べたら父親はとても頑張っている。父親のこともほめてあげてほしい。

こども園に送っていけるのになぜ開けてもらえないかということ。学童保育も同じだと思った。急に警報で休みになったとき、学童保育が担い手になれば親は助かる。その辺を考えるといいと思う。

私たち指導員にもキャリアアップや処遇改善があるという話があった。キャリアアップというのは、放課後児童支援員の認定研修を受ける。認定されると、その人に対してキャリアアップで、お金が1カ月1万円ぐらい給料が増える。5年、10年でもっと多くなる。それだけ長く学童保育で働くことがキャリアアップに繋がる。でも、なかなか長く働けない状況がある。若い人たちが一生懸命やってくれているが、ずっと働いて退職金ももらえないというところに繋がれば指導員の頑張りに繋がると思う。

■西尾委員 令和3年と4年にこの会議に出ており、この2、3年出てなかった。子ども・子育て支援の事業計画の実施状況を改めて読むと、そのときにここで意見が出たことが改善されてきていることがよく分かる。制度、人材確保、予算など多くのクリアすべきことをクリアしてこの状況になっていると思うと、さまざまな方々が努力して子ども・子育てが充実してきたということを改めて思う。

今、学校はたくさんの役割を担っている。恵那市の小学校の教員の年代を出してみたら、恵那市14校で、常勤で働いている者は、20代30代合わせて5割。40代1割。校長、教頭も含めて50代、60歳で定年後も働いている人を合わせて4割。この構成で精一杯やっている。若い先生が半分を占める現状で、一番若い先生たちが私に相談しにくるのは、「親に子育てについて相談を受けたときに、若いので、自分もこどもを育てたこともなく、どういうアドバイスができるのか、どういう連携ができるのか」ということ。そういった学校の体制の中で、チームで親と一緒にこどものより良い環境のために努力している。

若い保護者が親学をどのように学んでいくのか。親学を支えるような組織はどうなるのかということをおは個人的にとっても思っている。親が親として育つために、どういう支えが学校はできるのか。そういうことが体制の中で出てくるといいいつも思う。

また、小中学生はコロナ禍を超えて小さい子と触れ合う取組をどんどんやっている。特

に最近はお園の子や乳幼児、小さい子に触れる中で、温かみやこどもの良さ、小さい子と触れ合う良さをずっとやってきている。

不登校について。不登校の要因はさまざまある。本人の持っている苦しい部分や課題もあるし、保護者の抱える環境の苦しさもある。適応指導教室、フリースクールといったさまざまな諸機関、行政の子育ての方々と一緒に、その子に応じた学びや生活の環境を整えていく。そのためにどういう受け皿があるのかについては、一層連携を進めるようなことも・子育てをやっていけるといい。

■大石委員 皆さんの話を聞き、皆さんに子育ての力添えを頂いていることが分かり、感謝感激している。

人材確保が現場ではすごく難しい。若い人が辞めていく。職場体験、体験ボランティアに中学生が喜んで来てくれている。楽しいから卒園した園に来ている気持ちかもしれないが、そのボランティアをする中で将来の保育士の姿を見て繋がっていけるといいと、職員一同と話している。こどもの気持ち、一人一人を大事にして受け止めていきたい。

園でも親の子育ての不安を受け入れて、話をよく聞き、寄り添っていける態勢をとり、親が話しやすい環境を心掛けていきたい。

■議長（委員長） 回答があれば事務局から。

■事務局 外国人の状況。各園で増えている。親とのコミュニケーションが取れないこともある。こどもはだんだん慣れていくが、市では国際交流協会を通じていろいろな国の言葉で通訳を入れ、行事の打合せなどの時は、協会から通訳を頼んでいる。雇用している会社の同僚の日本語をしゃべれる人が母親についてきて、その人に通訳してもらう会社もある。大変だと思っているので、もう少し突っ込んでやっていこうと思っている。

C型の小規模保育事業所。利用者が今いなくて閉鎖状態。保育士は、保育士と必要な研修を受けた人でいいというルールになっている。今は保育士が対応している。

■横井委員 一時預かりは継続されていくと思うが、誰でも通園制度が並行していくプランはあるか。

■事務局 一時預かりは保護者のためのもので、こども誰でも通園制度はこどもの成長のための預かり。並行して進めていく。正直、誰でも通園制度は、初見の子がいきなり来るので、大変だ。こども家庭庁が机上で考えたルールでは、来る前に面談をしてこどもの把握をして認定するという。だが、現場としては大変だと感じる。国の制度なのでやる。それほど需要はないような気がしている。

目標量の設定の根拠については、個別に連絡する。

■事務局・子育て支援課 恵那市の子育て支援パッケージが充実していることは評価を頂いている。どこかで経済的支援にも歯止めをかけないといけないとこともある。本日の意見では、コロナも含め、社会構造の変化によって生まれた課題に今後向き合っていくよう

な施策を考えないといけないと思った。例えば、コミュニケーションが課題な子どもたちをどう支援していくかとか、親の子育てに対する不安をどう解消していくかということのような、恵那市だけでなく他の自治体でも課題になっていることに、どう支援を考えていくかが必要。

今後アンケートも踏まえどうということが考えられるかを事務局でまとめたい。

■議長（委員長） 母親たちが若いことと核家族が多くなったことで、祖父母に相談できないために悩んでいる人が多いと思う。

教育委員会と子育て支援課では今日の回答はこれぐらいだと思う。

4 議案について、このままで承認していただけるなら挙手をお願いしたい。

[挙手多数]

■議長（委員長） ほとんどの委員の承認により可決した。

次回も、委員の生の声を聞けることは計画を進める中で重要だと思う。机上で考える計画なら誰でもできるが、生の声を聞いて訂正加筆することが大事だ。また皆さんの意見をお願いしたい。

全ての議事が終了したので、進行を事務局に返す。

7.その他

(1) 恵那市福祉センターあり方検討委員会の選出について

(2) 恵那市環境審議会委員の選出について

■進行（事務局） 報告事項が2点ほどある。

資料 22、23 ページ。第 1 回恵那市福祉センターあり方検討委員会の選出について、恵那市環境審議会委員の就任依頼について。こども・子育て会議宛に委員の選出を依頼されている。既に福祉センターあり方検討委員会については本日 2 時に開催している。坪井委員長に出していただいたので了承してほしい。

8. 閉会のあいさつ（副委員長）

■副委員長・石田 いろいろな意見が出た。私も警報の時、1 歳の子と小学校 2 年生の子を預かって苦労した。課題も多いと思う。近隣都市では大雨警報だけ預からない。豪雨警報のみの時は警報だが、大雨警報の時は、保育園は、親が送迎すると預かるというようになっているところも、中津川市にも 1 か所ある。近隣都市の様子も見ながら、母親の仕事のことも考え、20 年前とは変わってきているので、今の母親の声をきちんと聴いて、恵那市としてどうしていくかを決めていただきたい。

今後も皆さんの意見をたくさん出していただき良い方向に向かうと良い。

■進行（事務局） これで終了する。

[閉 会]